



■ 2年生修学旅行お疲れ様!! 12月11日～15日
毎日、喜友名団長から一斉メールで報告がありました。以下その報告です。兎に角、全員無事に帰ってきて何よりです。



修学旅行2日目、天気も良く、絶好のスキー日和。外はマイナス8度で雪もチラついていますが、雪も積もりゲレンデも美しい。スキー研修が始まり、インストラクターの指示に従って元気いっぱい楽しそうに取り組んでいきます。脚を怪我している生徒は雪合戦をしてそれぞれ雪を満喫しています。

たり、雪だるまを作ったりして
◆3日目、昨夜遅くに千葉県に到着。スキー疲れが出てないか心配でしたが、生徒全員元気に東京自主研修へ出発しました。◆4日目、ディズニーは素晴らしい天気です。寒くて凍えそうですが、寒さも何のその、生徒たちはキャラクターの被り物をかぶって歩き、はしゃいでいます。それぞれのアトラクションに並んで楽しそうに過ごしています。◆いよいよ修学旅行最終日。一昨日、昨日と沖縄ではこんなに歩いたことがないと言うくらい歩き、遊び、お買い物をした生徒たち。今日は朝からグツタリと眠そう



が、食事はしっかりと食べていたので、沖縄に帰る頃は元気になっていることでしょう。これから東京大学プログラムです。東大生との勉強会や東京大学の散策です。この中から東大に進学を希望する生徒が出るかもしれませんね。楽しみです。

◆読谷高校修学旅行生、全員無事に帰沖しました。那覇空港からバスに乗り込み、読谷高校に向かっていきます。大きなケガや病気もなく、無事に修学旅行を終えることができそうです。飛行機の中で爆睡していた生徒たちも、お土産の山に埋もれながらバスの中では大はしゃぎ。みんな成長して帰ってきました。…と思います。忙しくても、みやげ話たくさん聞いてあげて下さいね。(喜友名小百合団長よりライブレポート)

■ 「DVデート防止講演会」お礼の言葉 12月7日

更生保護法人がじゅまる沖縄DV加害者更生相談室研究員・心理学専門の名嘉ちえり先生を講師に迎えて講演会を実施しました。最後に、保健委員長の宮城卓朗君(3-2)から講師へのお礼の言葉がありました。

DVと聞くと、家族や恋人に暴力をふるう行為だと思われていますが、言葉の暴力もDVにはいり、自分のことを見てくれなかったり意見を聞いてくれないなど、相手を不安にさせたりすることは魂の殺人、という暴力などのDVと同じように人の心を切り裂き、いつでも傷が残ることを知りました。

自分は冗談で人をからかっているつもりでしたが、その人が知らずに嫌な気持ちになっていることもあるので、少し恐ろしい気持ちになりました。ちえりさんが冒頭で述べられていたように、せつかく神様や親からもらった体は人を傷つけるのではなく、もっと自分や相手が良い気持ちになっていくように使っていきたいと思います。(3-2宮城卓朗)

皆さんも同じ気持ちだと思います。他人を幸せにする人になって下さい。

★本の紹介コーナー★

題名：「編集手帳」の文章術
著者：竹内政明

「胸にストーンと落ちる」という表現がある。読売新聞のコラム「編集手帳」は、読者の胸を落ちながら、心のひだ一つ一つに触れ胸を熱くさせる。どうしたらそのような名文が書けるのだろう。「文章を書くとき、自分に言い聞かせているルール」として、第一章の「私の『文章十戒』」から文章術の紹介が始まる。「『ダ』文を用いるなかれ」がその「第一戒」。名文を「声を出して読んだときに呼吸が乱れない文章のこと」と著者は定義しており、「・・・だ。」は音読すると、「ブツ、ブツと調べを裁ち切るところがあり、どうも用いる気になりません。」と書いている。しかし、「一度だけ『ダ』を使ったことがあります。」ということで、いじめ事件についての2012年7月6日付コラムが紹介されている。

童謡にはときに不穏な歌詞がある。『めえめえ児山羊(こやぎ)』(詩・藤森秀夫)の、〈朽木(とつこ) あたれば頸(くび)が折れる 折れりや児山羊はめえと鳴く〉。『金魚』(詩・北原白秋)の〈お母さん、帰らぬ、さびしいな。金魚を一匹突き殺す〉 ◆詩人の感性が言葉にすくい取ったように、子供の心には無抵抗の相手に対して残酷になれる芽が潜んでいるのかも知れない。芽は思い出したように醜く繁茂して、世相に暗い影を落とす ◆その子が強要された「自殺の練習」が何を指すにせよ、いじめに加わった生徒の陰湿な笑い声が聞こえるようで胸が悪くなる ◆大津市で昨年10月、市立中学2年の男子生徒(当時13歳)が飛び降り自殺した。「自殺の練習をさせられた」「恐喝されていた」「万引きをさせられていた」「毎日殴られていた」「教諭が見て見ぬふりをしていた」、自殺直後になされた全校生アンケートの回答には救いのかけらも見つからない。誰が何をし、誰が何をしなかったのか ◆児山羊でも金魚でもない。やがて上の学校に進み、恋をし、仕事に夢を追い、結婚して父親にもなっただろう人生である。人生だ。

(読売新聞『編集手帳』2012.7.6)

『人生だ。』にはドスンと胸を突かれる。「天声人語」は606文字、「編集手帳」は458文字が制限で、大手新聞社コラムの中では文字数が一番少ない。「時間がなかったので長文になりました」と言ったのはパスカルであると「編集手帳」で知った。短文を書くのは難しい。次回も「編集手帳」を紹介したい。